



＊ほう酸団子

新井宿六丁目町会

町会の衛生部は、毎年活動の一環として、「エキブリ」駆除にほう酸団子を作っています。約四千五百個のほう酸団子を、町内のご希望の家庭に配布しています。とても好評で、作業もみんなでやるので楽しいです。誰にでも作れますので是非作って見てください。

大田区政功労者表彰

- 平成13年3月15日、大田区民プラザで区政に功労のあった方々に対する表彰が行われました。受賞された当地区の方々を分野ごとにご紹介します。さらなるご活躍をお祈りいたします。
- (敬称略・五十音順)
- ＊民生委員・児童委員
吉村 悦子
- ＊消防団員
内田 裕三
- ＊自治会・町会(会長・副会長)
池田 陽一
- ＊多額寄付者
川端 紀美子
- ＊区立学校歯科医
梅本 祐司
- ＊体育指導委員
入内島 正子
- 森 相子

＊材料(約150個)

- ・ほう酸 1kg
- ・小麦粉 280g
- ・玉ねぎ 500g
- ・砂糖、牛乳各小さじ1

＊作り方

○ほう酸と玉ねぎ(ミキサーですったもの)と小麦粉と牛乳・砂糖をよく混ぜる(水は入れない) ○小さな団子にしてさらに直径2.5cm位のつぶした形に作る ○古新聞3枚位の上に並べ4日位乾燥させて出来上がりです。

(乳幼児には注意して下さい)



＊経過報告

旧区役所跡地の文化活動支援施設は、今年十一月のオープンに向け建設工事が進められていると聞いておりますが、さて、工事の進み具合はどうなのでしょう。ようか、区民施設課の担当者におたずねしました。



に全て完成するので、予定通り十一月月上旬のオープンは間違いないとのことでした。一般から募集していただきました名「わがまち新井宿」です。今回のテーマは温故知新、各町会の特記すべきところを掲載しました。時は流れ、案外忘れ去られてしまった事等、紙面の都合上、詳細に載せられないのが残念ですが、詳しくは図書館に様々な史誌が揃っておりますので、御参考して下さい。

編集後記

末筆ですが、一面の文化財の取材に際し、高橋診療所様の御協力、誠に有難うございました。(湯浅編集委員)

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
監修 新井宿地区自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央四一三二一四
三七七六一五三九一

文化財がわが町に!

大森駅から池上通りを下ると右手に、昭和初期のハイカラな建物が、現在でも変わらず町並みにとけ込んでいます。

高橋診療所(山王3-30-5)は、院長先生のお父様が昭和6年池上通りが拡張された時、建て直しされました。

お父様は、大変努力家で、あらゆる書物で勉強され、設計からデザインまですべてご自分でされました。そのため、とても生活しやすく、当時では最高にハイカラな、スペインシアスタイルといえます。木造モルタル二



ハイカラな瓦

わがまち Araijuku 新井宿



池上通り沿いの高橋医院

階建てで総檜木造りです。大黒柱は太く、窓枠、扉、タンスはくるいもなく、ガラスもほとんど当時のままで厚く、重厚な趣きがあります。戦災では運よく難を免れ、天井が少し焦げた程度ですみました。昭和39年に改修した時、水回りは少しも悪い所はなかったそうです。しかし、維持していくには大変で、特に壁の塗り直し

や瓦には、費用もかかるそうですが、院長先生のお顔には、この家の住人である事の誇りや、喜びがにじみ出ていたように思われました。

平成12年、国の文化財として登録されました。

当時、幼少の頃だった院長先生は、あまりにも大勢の大家さんに驚き、その恰好よさに引かれ、自分も大工になろうと思っただけです。釘と金づちを持って、いたる所に釘を打ち大工のまねをした事もありました。その思いは、女学校へ行く頃まで変わりませんでした。お母様に説得され、諦めたそうです。

【登録文化財】

文化庁は平成8年10月から、歴史的建造物を活用しながら守っていくという文化財の登録制度を導入しました。登録の基準は3種類あり、今回この建物は《国土の歴史的景観に寄与しているもの》として登録されました。大田区内では平成13年3月現在、8件の建造物が登録文化財となっています。(外観のみ、公開していません。)

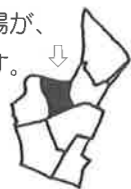
—新井宿ガイド—

町会今昔

中央一丁目町会

村社春日神社を中心に、いにしへの東海道が貫いています。そのため、古くからの商店、住民が多く、顔馴染みの人々です。住居表示改正で、新井宿四丁目東町会から、現町会名になりました。

昔の新井宿村小字美奈見の地名を屋号にした銭湯が、現在も残っています。



新井宿六丁目町会

町会には、昭和5年まで乗合馬車が通り、後に車道となった現在の池上通りがあります。当時その沿道に店並が連なり、牧場や川等もあり、昭和6年入新井第四尋常小学校が開校しました。戦後は観音堂を中心に今の観音通り商店街が発展し、52年頃、川は桜並木に変わりました。世帯数も多く、町内行事は明るく、ダイナミックな町です。



山王三丁目町会

新井宿三丁目町会がそのまま名称を変えました。山王三丁目の約半分の区域と中央一丁目の一部から成りたっています。新井宿三丁目の一部は環七によって分けられ、中央名に変わりました。

由緒ある熊野神社や義民六人衆でも知られている善慶寺などと共に、新井宿の中心的な地区でもありました。



中央四丁目町会

町会には、大田区立龍子記念館があります。又、古くからの地名をペンネームに用いた子母沢寛は、昭和初期この地に住んでいました。子母沢公園や、内川と六郷用水の交差する橋、出土橋の名をとった米店があり、昔を思い起こすゆかりとなっています。新住居表示により、新井宿四丁目西町会から中央四丁目町会と改めました。



住居表示の うつり変わり

山王三・四丁目自治会



現在は環七を境に、山王四丁目と南馬込三丁目と区分されていますが、昔は木原山の台地の裾を流れる小川、内川の上流の水路を境にしていました。

昭和初期、この地で子供時代を過ごされた室生朝子さん(随筆家・小説家)は、雨が降るといつもあふれるドブ川だったと回想しています。



江戸時代から続いた新井宿の地名が、昭和39~40年改正の住居表示により山王、中央、大森北や大森西に変わりました。長年親しんできた新井宿への断ち難い想いの中で、新しい町会名や区割りを決めることは、当時の町会役員の方達にとって苦しい選択であったことと想います。

山王や中央に名称を変えた町会や自治会が誕生しましたが、一方、新井宿の名を残した町会もできました。昔の地区割りは主に用水路などを境にしていたのですが、都市化が進んだ改正時は道路が境界になりましたので、新しい区割りの結果、町会名と町名との関連に紛らわしさが生じた町会もあります。しかしその反面、この街の歴史を思い起すきっかけを残しておいてくれたと思えば、その功績は大きいでしょう。

新井宿五丁目町会

わが町会は新しい町名で中央一・四丁目の一部、森西一丁目・北五丁目・山王三丁目の各一部、中央二丁目からなりたっています。JR線や池上通りを挟んで近年大型マンションが幾棟も建ち、新しい住民も増えています。区役所の移転に伴い、行政中心の町から新たに文化活動の基盤の町となります。



山王三丁目東自治会

JRと池上通りに挟まれた世帯数、百未満の小さな自治会です。住民のほとんどは、戦後移り住んできた商店主とその家族です。

戦争中の強制疎開、戦後の焼け野原からにぎやかな闇市へと、激動の時代背景の中で、現在の商店街の基盤を築いてきました。そんなパワフルな人々の歴史が小さな自治会の源となっているのです。



旧新井宿七丁目町会

昭和30年代まで海苔舟などが係留されていた内川を挟んで、新住居表示で大森西一丁目、四丁目になりました。

明治初期に、沼地沢地が新しく田となり、今でも新田踏切や新田橋として名を残しています。

町会名を“旧新井宿”にしたのも、昔へのこだわりのロマンなのかもしれません。

